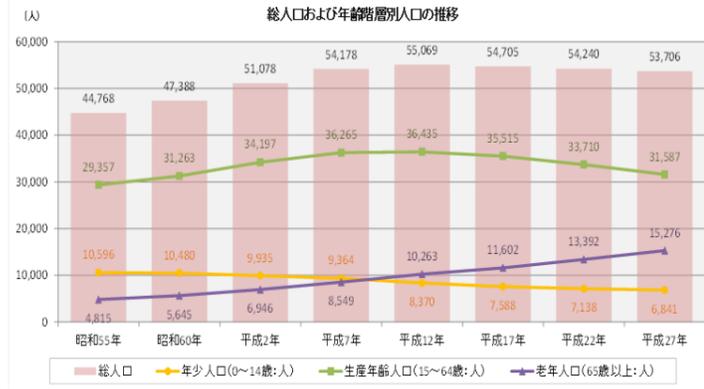


那珂市人口ビジョン(概要)

人口動向分析と将来推計

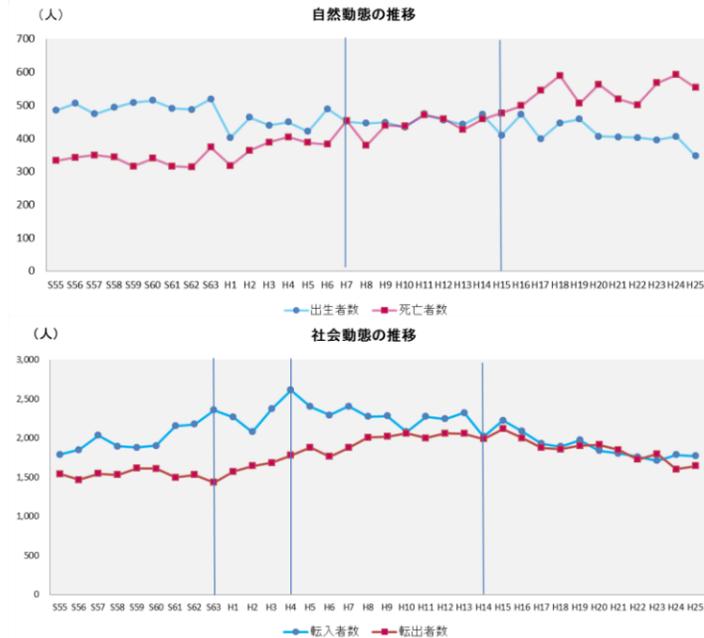
■人口

- ・総人口：平成12年 55,069人 をピークに微減傾向。
 - ・生産年齢人口：平成12年の 36,435人 をピークに減少傾向。
 - ・年少人口は昭和55年以降は一貫して緩やかな減少傾向。
 - ・老年人口は約3.5%/年で増加し、平成12年に年少人口を逆転。
- 人口が微減のなかで、少子化と高齢化が同時に進行中。



■自然動態と社会動態

- ・自然動態：平成15年以降は、死亡者数が出生者数を上回る自然減少の状態。主要因は死亡者数の増加。近年は出生数も減少傾向。合計特殊出生率は県と同レベル。
 - ・社会動態：平成15年以降は、転入者と転出者数が拮抗した状態。就学就職期に若年層の東京圏への転出超過傾向。
- 人口減少は、主要因は死亡数の増加によるものであるが、若年層の東京圏への転出超過も大きな要因。



■将来人口推計

- 現下の人口状況に未婚化晩婚化の影響も加えた推計では、将来人口大幅減の予想。
- ・社人研推計（パターン1）の総人口
平成52年：42,622人（平成22年比△21.4%）
平成72年：32,182人（平成22年比△40.7%）
 - ・日本創成会議推計（パターン2）の総人口
平成52年：41,715人（平成22年比△23.1%）
- 今後、何の手立でも取らないと、人口減少が加速的に進むことが避けられない状況。若い女性の減少が大きな要因。



将来展望人口

■目指すべき将来方向

(1) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を早期にかなえる

那珂市の人口減少を抑制するためには、若い世代の希望を実現し、できるだけ早期に合計特殊出生率を上昇させていくことが重要です。結婚から子育てに至る一貫した支援の充実を進め、出生者数の維持を図ります。

(2) 社会動態における転入超過の維持・増加を図る

社会動態に関しては、県北中山間地域からの転入増加を主因として、僅かですが転入がプラスとなっています。転入超過を維持している背景には、那珂市の相対的な住みやすさがあり、今後も住みやすさを向上するための施策を展開することにより、総体として転入超過の維持・増加を図ります。

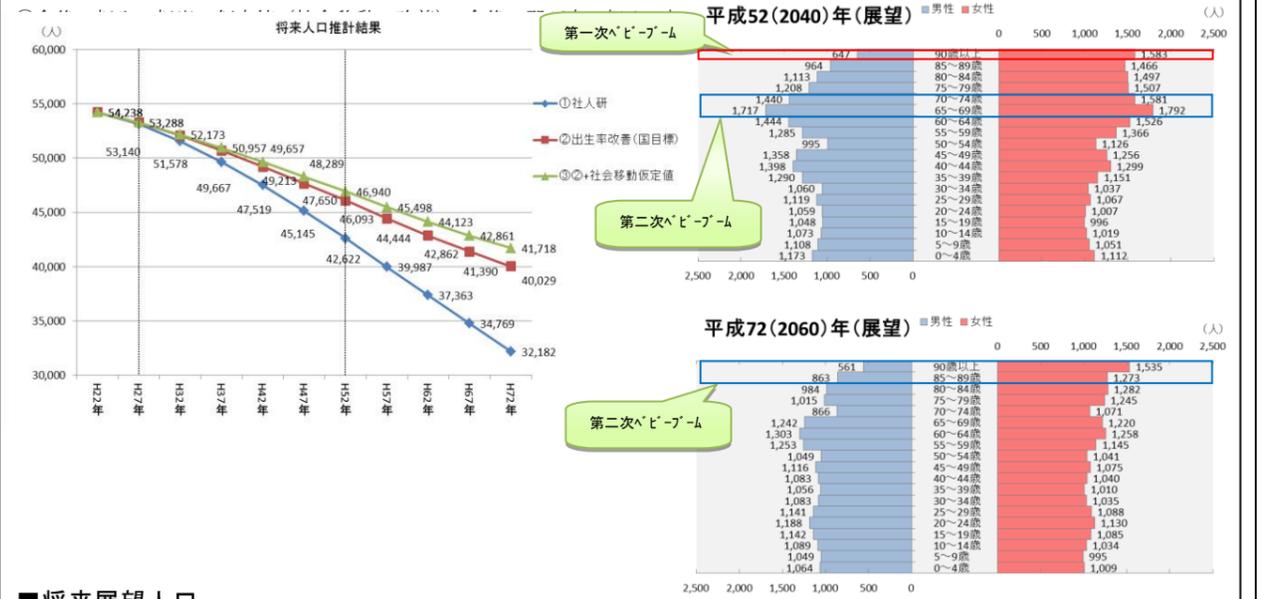
(3) 若い世代の転出を抑制する

若年層に関しては一貫して転出が超過していることや高校生の地元に対する愛着度・定住意識が若干低めであることから、子どものころからの愛郷教育の充実、将来的な地域への還流を促進するための施策の実行と雇用の場の確保などの環境整備を進めることにより、若い世代の転出抑制を図ります。

■将来展望人口の前提

以下を前提に将来展望のための人口推計を行いました。

- ① 現下の人口状況：平成27年1月1日時点での那珂市の人口は、53,706人（常住人口調査）で、社人研が行った推計による平成27年の推計人口 53,140人 を約500人程度を上回っています。
- ② 結婚・出産・子育てアンケートによる市民希望の実現（合計特殊出生率の改善）：若い世代の希望する年代（時期）での結婚の実現、出産を希望する子ども数の実現を通して、合計特殊出生率の改善を図ります。



■将来展望人口

平成52(2040)年の人口は47,000人
平成72(2060)年の人口は42,000人